

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題(A)

「数と式」

◇全国平均を上回っている。

「図形」

◇全国平均を上回っている。

「関数」

◇全国平均を上回っている。

「資料の活用」

◇全国平均を上回っている。

主として「活用」に関する問題(B)

「数と式」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「図形」

◇全国平均を上回っている。

「関数」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「資料の活用」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

●一次関数の意味を理解できる。

例) 歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ。

●多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解できる。

例) 1枚の硬貨を多数投げたときの表が出る相対度数総の変化の様子について、正しい記述を選ぶ。

●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できる。

例) A駅からの道のりが6kmの地点において、列車Aが通ってから列車Eが通るまでの時間をグラフから求める方法を説明する。

●与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理できる。

例) S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く。

●数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現を用いて説明する。

例) 通常料金をaとしたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する。

○具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応の様子を調べることを通して、2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断する学習活動の充実。

○観察や実験などの活動を取り入れ、実験による結果を表やグラフにまとめる場面を設定し、実験結果を表したグラフからわかったことを数学的な表現を用いて説明する活動を取り入れた学習活動の充実。

○問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」を確認し、表、式、グラフの「用い方」について説明する場面を設定した学習活動の充実。

○事象を目的に応じて数値化し、数直線や比などに表すことで、基準量・比較量・割合を捉え、それらの関係を的確に式に表す学習活動の充実。

○事象の考察において、表、式、グラフなどから得られた結果を事象に即して解釈し、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する場面を取り入れた学習活動の充実。